

アクイララーヌス・パリメンタス：

シャベルのようなくちばしをもつカモノハシ竜の発見

この恐竜のほぼ完全な頭骨がテキサスのビッグ・ベンド国立公園にあるアグジャ層から発掘された。カモノハシ恐竜として知られているハドロサウルス科の恐竜で、ワシのくちばしのような曲がった顔面にシャベルのようなくちばしをもっている点で、これまで知られているハドロサウルス科恐竜とは異なっており、系統解析の結果新属に位置づけられた。

この恐竜の発見は、1980年代まで遡るが、発見された化石の保存状態が悪く分類学的な検討は十分ではなかったが、1990年代にハドロサウルス科のグリポサウルスに特徴的な形態が確認された。その後、スペインの古生物学者 A. プリエト - マルクエスらの研究グループ[1]が詳細な検討が進めた結果、グリポサウルスなどよりも原始的な形態の恐竜であることがわかった。新たな属が発見されたことで、カモノハシ竜の初期進化に新たな証拠が付け加わったことになる。

ハドロサウルス科に属するカモノハシ恐竜は、中生代後期における代表的な草食恐竜であり、頭部の形態はいずれもよく似ている。下あごは U 字型に配列してくちばしを支えるような形態で、植物を採取するのに適した構造になっている。今回発見されたアクイララーヌスでは下あごが W 字型に結合して、平らなシャベルのようなくちばしを支えている。今から 8000 万年前にこの恐竜は、潮の満ち引きのある海岸で、海岸の砂を掘って水生植物を食べていたのだろう。



[1] Prieto-Marquez, A. et al. (2019) An unusual 'shovel-billed' dinosaur with trophic specializations from the early Campanian of Trans-Pecos, Texas, and the ancestral hadrosaurian crest. *J. System. Paleontol.*, DOI:10.1080/14772019.1625078.